

# 令和7年度孤立集落状況把握・支援訓練 (奈良県十津川村・内閣府)

## 実施報告書 (概要版)

### 奈良県十津川村について

- 奈良県十津川村は奈良県の最南端に位置し、西は和歌山県、東は三重県に接している
- 人口は令和7年4月1日時点で2,709人。面積は約672km<sup>2</sup>で、村としては日本一の広さ(北方領土を除く)である。源泉かけ流しの温泉や、清流、滝、吊り橋など、観光資源となっている。
- 村の96%を森林が占め、森林資源豊かな村としても知られており、製材・加工・仕上げ、流通・販売まで村内で一貫して対応できる基盤がある。
- 令和5年12月には役場庁舎に隣接した災害対策本部拠点施設が竣工し、自家発電設備や約100人・3日分の飲料水を確保している。

### 主な被害想定

- 平成16年に発表された「第2次奈良県地震被害想定調査報告書」において、最大震度6強の揺れが想定されている(役場では、震度6弱)。
- 村内の主要道路では震度6弱以上の地震動となる地点はないが、近隣市町村の被災による孤立化が想定される。



## 訓練概要

- 訓練想定：和歌山県潮岬の南西70km（北緯33度、東経135度）を震源地としたマグニチュード9.1の地震が発生し、十津川村は震度6強を観測。村道高滝線、国道との分岐付近で崩土あり、車が通れる状況ではなく孤立。
- 実施日時：【孤立集落状況把握・支援訓練】  
令和7年10月31日（金）9:00～11:00  
【訓練実施後WS】 令和7年10月31日（金）11:00～12:00
- 主催：十津川村
- アドバイザー：神戸大学減災環境デザイン室顧問 室崎 益輝名誉教授
- 参加者数：約30名
- 参加機関：十津川村役場
- 訓練項目：災害時対応の図上訓練（災害対策本部設置運営、情報連携・伝達、孤立対応、自衛隊派遣要請）
- 訓練の特色：図上訓練では多くの各種状況付与を行い、各部にて対応を実施した。2度の災害対策本部会議訓練を実施した。

## 訓練の成果

### 【成果】

- 図上訓練のみではあるが、村役場として本格的な訓練を実施できた。
- 村長、副村長をはじめ村幹部が出席し、職員全体の防災に関する意識が向上した。
- 職員は主体的に訓練に取り組み、訓練後の振り返りにおいて、今後に向けて「より深刻な状況を付与した図上訓練」、「消防、警察等も参加する実動訓練」の実施等、災害対応の高度化に向けた意見が多く出され、今後につながる機会となった。

### 【課題】

- 職員が円滑に参集できない場合を想定し、複数拠点で連携した災害対応訓練の実施を検討している。
- 村内で道路が寸断され、職員が参集できない場合を想定し、オンライン会議ツール等デジタル技術を活用した情報整理・共有の手法を検討している。

10月31日(金) 09:00～11:00 孤立集落状況把握・支援訓練

- ・ 状況付与カードを用いて、「土砂崩れ」「停電」「奈良県からの報告依頼」等の状況を付与して、部を跨いで情報共有し、災害対応を実施した。
- ・ 1回目の災害対策本部会議にて、各部からの状況報告を受けて、村長は「村民の命を最優先に」「速やかな被災状況の把握を」等の指示を出した。
- ・ 1回目の災害対策本部会議の後、「避難所開設依頼」「報道対応依頼」等の状況付与を追加し、各部にて対応した。
- ・ 2回目の災害対策本部会議にて各部からの状況報告を踏まえ、村長から「孤立を確認した。県に自衛隊派遣要請を行う」等指示をした時点で、訓練を終了した。

▼訓練想定や進め方を説明



▼広報班の議論



▼ホワイトボードを使い対応を協議



▼各班より状況共有



▼状況付与を受けて対応



▼村長から指示



10月31日(金) 11:00～12:00 訓練実施後ワークショップ

- ・ 自部署の対応の振り返りと改善点を整理し、今後の取り組み内容の検討と優先度付けをするワークショップを実施した
- ・ 帰宅困難者の避難指示や通行止めの児童・生徒数の確認が円滑に実施できたという意見が挙がった

▼訓練の振り返りを付箋に貼りながら議論



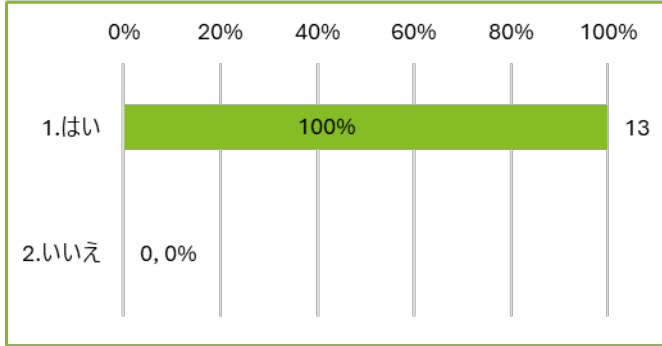
▼全体に向けて発表する参加者



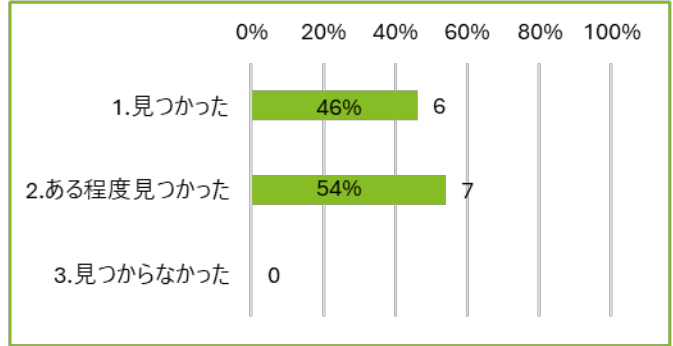
アンケート結果

回答数：13

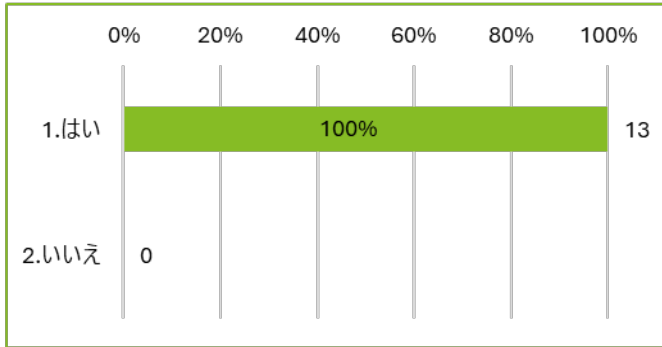
1. 今回の訓練及び振り返りは、地域の防災対策強化につながると感じますか。



2. 今回の訓練及び振り返りを通じて、災害時の情報収集・発信等における課題や解決策は見つかりましたか。



3. 今回の訓練及び振り返りを通じて、災害への備えの意識は高まりましたか。



4. 今後、どのような防災の取り組みに関心がありますか。（複数選択可）

